

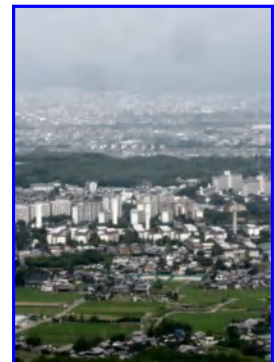
公立義務教育学校の教育活動を核とした地域活性運動

京都市立洛西中学校区

〔事業の概要〕

本洛西中学校区を含む洛西ニュータウンは、他のニュータウン同様少子高齢化が進み、人口減に伴うさまざまな課題を抱えています。このような問題意識から、行政や地元住民の皆さんが「洛西ニュータウンまちづくり検討会」を立ち上げ、『将来ビジョン』を作成されました。現在は「ニュータウン創生推進委員会」として、地域活性の具体的な実践に取り組まれています。

学校教育に関わる者として、地域の課題を共有する。そのための手立てのひとつとして、また学校教育の本来の仕事のひとつとして、子どもたちの学びと育ちに責任を持つ。そして学力面においても、人間力の面においても、本校区の小中学校が「力のある学校」として他の追随を許さないような成果をあげ、その成果を全市・全国に発信できるなら、しかもその実践と検証が、就学前教育に始まり、小中の義務教育段階から、高等学校、大学と一貫した取組として展開できるなら、洛西ニュータウンへの転居希望者が増加するに違いないと考えています。「公立義務教育学校の教育活動を核とした地域活性運動」ともいうべき取組です。



洛西ニュータウン

（１）地域・学校の概況

本洛西中学校区は、京都西部国道9号線ぞいの丘陵地に、昭和51年より開発された洛西ニュータウンのほぼ中央に位置し、洛西中学校は昭和54年4月に、新林小学校は昭和52年4月に、境谷小学校は昭和55年4月に開校した3校それぞれがほぼ30年の節目を過ぎた学校となりました。

その後は、ニュータウンの人口増加にともない、中学校は昭和55年に分校がつくられ、平成7年にはさらにもうひとつの分校ができました。しかし、洛西ニュータウンも、早や30数年の年輪を刻み、多少の流出入はあるものの、人口の急増期を終え、近年、人口の流動はあまり見られない状況です。むしろ全国的な少子高齢化の流れを受け、若年層、とりわけ小中学生の児童・生徒数は激減しています。現在、洛西ニュータウン内には3中学校・5小学校があり、児童・生徒は各校に分散していることと、大幅な人口減と相まって、小中学校ともかつての大規模校から中規模校ないしは小規模校へと変わりつつあります。

本校においても、昭和63年の生徒数1,504名を上限に年々減少し続け、校区の3分の1が分校に移転したとはいえ、今年の生徒数373名は今昔の感があります。

因みに、洛西中学校、新林・境谷両小学校の今年度の児童数生徒数は以下の通りです。

洛西中学校1年生	123名	(男子 63名)	(女子 60名)
2年生	131名	(男子 66名)	(女子 65名)
3年生	119名	(男子 54名)	(女子 65名)

新林小学校1年生	71名	境谷小学校1年生	43名	計	114名
2年生	76名	2年生	57名	計	133名
3年生	85名	3年生	46名	計	131名
4年生	73名	4年生	55名	計	128名
5年生	91名	5年生	37名	計	128名
6年生	77名	6年生	55名	計	132名

(2) 事業の経緯・目的

本校区・洛西ニュータウンも、他のニュータウン同様少子高齢化が進み、人口減に伴うさまざまな問題を抱えています。このような問題意識から、平成17年8月に行政の主導で「洛西ニュータウンまちづくり検討会」が発足され、平成18年11月に「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」が策定されました。そして現在は、先のビジョンの実現に向けて、洛西ニュータウン創生推進委員会が具体的な実践に取り組まれています。

孟母三遷を持ち出すまでもなく、良質の教育内容（学力面の充実・人間的な成長の両面）を保障する学校には、転居してでも子どもを入学させたいという思いをもつ保護者はおられるものです。

もしこの仮説が真実なら、本校区3校の取組を通して、他の「効果のある学校」「力のある学校」に遜色ない成果を上げることができるなら、本校区3校へ入学するために、他地域から洛西地域へ転居してくる家庭が増えるのではないかと。

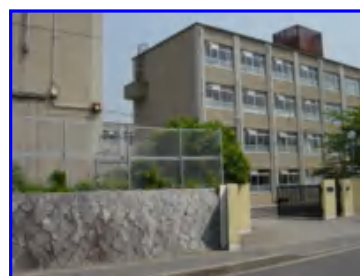
そうすれば、本校区3校の活性化にとどまらず、洛西地域の活性化に寄与・貢献できるのではないかと考えています。「公立学校の教育活動を核とした地域活性運動」とも言うべき取組です。

本校区3校の教育活動が洛西地域全体の活性化に寄与する。また、地域の各種団体の取組が公立学校の教育活動に貢献する。学校と保護者・地域が、双方から協力・支援体制を構築し、子どもたちの育ちと学びを保障する。そのために、学校運営協議会や学校支援地域本部の制度が子供たちの「育ち」と「学び」に大きな働きを期待したいと考えています。

【京都市立洛西中学校の取組】

(1) 事業の内容

本校の事業内容を、1) 生徒の学習支援活動、2) 小学生の学習支援活動、3) 地域のふれあいフェスティバル、4) 校内の環境整備活動、5) 生徒の健全育成活動、6) その他の6つに分けて、箇条的に記したいと思います。



中学校校門付近

1) 本校生徒の学習支援活動としての3つの事業

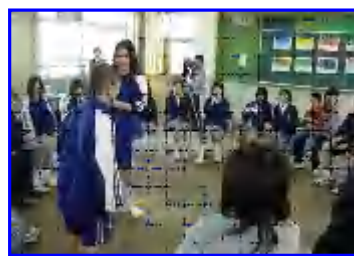
- ① 学習支援Ⅰは、本校生徒から希望者を募り、学校支援ボランティアによる「放課後学習会」の実施です。3年前から、3年生を対象に数学と英語の2教科を中心に、部活動引退後の10月下旬から始めました。5人のボランティアの方にかかわって頂きました。

今年度は下記の理由によりこの事業を発展的に解消させ、②の事業に移行しています。

- ② 学習支援Ⅱは、1・2年生にも対象を拡大し、学習会の参加者の増加をめざして企画した学校支援ボランティアによる「夜の自主学習会」です。

学習支援Ⅰでは、生徒が期待通り参加してくれませんでした。学校支援ボランティアの方々と一緒にどうすれば参加が増えるのかを考え、生徒アンケートの結果なども参考に、部活動終了後の時間、夜の6時から7時までの1時間、「夜の自主学習会」を企画しました。

各学年20名程度、全校生徒の約20%ほどが参加する事業になっています。その成果も定期テストなどで確実に見ることができます。



- ③ 学習支援Ⅲは、4年前からはじめた土曜スクールの取組みです。英検5級から準2級までの受験対策に特化して希望者を募り、学校支援ボランティアによる土曜スクールを実施しています。

2) 校区の小学生を対象とした学習支援活動としての2つの事業

- ① 学習支援Ⅳとして、校区小学校5・6年生から希望者を募り、「英語に慣れ親しもう」コースをつくり、学校支援ボランティアによる土曜スクールを実施しています。2年前から始めた事業です。今年度の講師は地域の方5名です。

- ② 学習支援Ⅴとして、校区2小学校5・6年生を対象とした英語活動(週1回)を学校支援ボランティアと担任によるTT授業を推進しています。

これは、小学校学習指導要領の改訂に伴う移行措置に則り、昨年度から先行実施しているものです。地域の英語に堪能なボランティアの人が本校校区2小学校の英語活動に全面的にかかわっていただいています。2小学校の5・6年各2学級ずつで計8学級×週35時間=年間280時間にわたってですから、かなりの労力です。この取組みは、小学生の英語によるコミュニケーション能力の素地を養う意味からも、また小学校担任の英語力を高める意味からも、意義のある事業だと思っています。

3) 部活動支援の観点から、洛西ふれあいフェスティバルの開催

- 洛西ふれあいフェスティバルは、本校及び隣接する小学校の施設を利用して行う中学校区単位のお祭りです。このお祭りは、中学校区の地域生徒指導連絡協議会(地域の子どもたちの健全育成を願って、自治連合会・少年補導・自主防災会・主任児童委員会・PTA・学校などで構成された組織で、京都市ではすべての中学校区単位で作られている)が主体となって、平成5年から毎年開催されている行事です。このお祭りのコーナーのひとつとして、3年前から本校生徒と校区2小学校5・6年生との部活動交流会を実施しています。その際、PTA・おやじの会ははじめ各種団体のみなさんが約500人分の炊き出しをしてくれています。因みに昨年はカレーライスを作っていただきました。

4) 環境整備活動としての2つの事業

- ① 環境整備Ⅰは、学校支援ボランティアの協力で校内を「花いっぱいにする」花植え活動です。昨年度、本校は創立30周年を迎えました。その佳節を記念して、校舎の緑のカーテン化の取組みや校舎周辺にプランターでいっぱいにする取組、雑草だらけになっていた花壇を再生する取組など、地域・PTA・おやじの会などと生徒会とで取組を進めました。



環境整備の作業中

今年度は、環境整備の活動をさらに充実させようと、園芸ボランティアの方々を募集しました。10数名の方が応募してくださり、毎週火曜日に「園芸の日」として、PTA・おやじの会などの方々と協働で取り組んでいただいています。

また、2年生の総合的な学習の時間の一環として、「京野菜」・「緑のカーテン」づくりのカリキュラムで授業を行っています。

- ② 環境整備Ⅱとしては、地域自治連合会の恒例行事である一斉清掃活動（毎年12月に実施）に、部活動生徒が参加する事業です。かつて、「生徒の姿が見えない」と地域の方々からよく言われました。このような声を払拭するためには、地域に学校を開く事業だけでは弱い。学校のほうから、また生徒のほうから、地域に働きかける事業が必要だということから、その事業のひとつとして3年前からはじめています。

今年度、地域の公立高等学校や小学校にも話を持ちかけ、小中高の約1600名の在校生全員の取組として行います。

5) 生徒の健全育成活動としての3つの事業

- ① 生徒の健全育成活動Ⅰとして、学校支援ボランティアを招いて「親子で学ぶ道徳授業」の開催。年度の課題に合わせて「携帯電話の功罪について」や「職業について」などをテーマに行っています。

- ② 生徒の健全育成活動Ⅱとして、学校支援ボランティアと生徒会との「ふれあい討論会」の開催。例年、夏季休業中の8月末に、「中学生が地域に貢献できること」などをテーマに討論会を実施しています。討論会終了後、参加者70人ほどで昼食を作り、一緒に食べるなど、楽しいひと時を過ごします。

- ③ 生徒の健全育成活動Ⅲとして、「音楽と天体観測の夕べ」の開催。昨年度から「音楽と天体観測の夕べ」と題するイベントを10月中旬に開催しています。吹奏楽部の演奏会、その後、天文学の専門家に来ていただき、天体観測を楽しみます。今後、地域の伝統行事になればと思っています。

6) その他、学校の空き教室を利用して「学校支援地域本部の部屋」を創設。

学校支援地域本部の会合にとどまらず、地域の各種団体の皆さんが会場に困られているという話を聞き、皆さんが自由にいつでも会合ができるように、本校の空き教室を開放しています。

(2) 関係団体等との連携・協力

1) 「学力向上アクションプラン～洛西方式09～」の展開

本校では、4年前より「学力向上アクションプラン～洛西方式09～」と銘打ち、学力向上の具体的な実践研究を進めてきました。実践テーマとして「学力水準の向上と学力格差の解消を実現するための6つの柱」を掲げています。

「学力水準の向上と学力格差の解消を実現するための6つの柱」とは以下の通りです。

- ① 授業時数確保の取組、
- ② 授業改善の取組、
- ③ 家庭との連携による取組
- ④ 異校種連携の取組、
- ⑤ 地域との連携による取組、
- ⑥ 土曜スクールの取組

これら取組のうち、①②③については、主に学校における取組ですので、ここでは省略します。

④の「異校種連携の取組」については、校区2小学校への中学校教員の計画的な出前授業に加えて、「(3) 事業の内容の1) 生徒の学習支援活動」で述べたような地域の方々をお願いして行っている学習支援活動を通して、義務教育9年間の一貫した学力向上と学力格差の解消を目指しています。

また、中高連携として、

⑤の「地域との連携による取組」についても、「(3) 事業の内容の1) 生徒の学習支援活動」で述べたように、放課後や夜の6時から行っている自主学習会、長期休業期間中の補充、あるいは、発展学習などの講師を学校支援地域本部の皆さんをお願いして行っています。

⑥の「土曜スクールの取組」についても、同じく、「(3) 事業の内容の1) 生徒の学習支援活動」で述べたように、英語検定学習に特化して希望者を募り、英検合格を目指した取り組みを進めています。

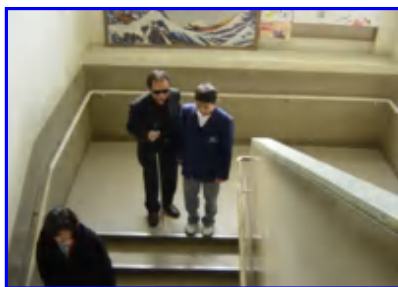
このような活動に地域住民の方々に広くご参加いただくため、「教える人」ボランティアを募集するだけでなく、生涯学習の場として、生徒と一緒に「学ぶ人」も募っています。

また、校区内にある府立高校と私立高校と授業交流、部活動交流、進路保障など連携を深めています。

2) 「人間力向上アクションプラン～洛西方式09～」の展開

本校では、学校教育目標を「よりよい社会の実現に貢献しようとする人間性の育成」とし、道徳や総合的な学習の時間などを利用し、ボランティア活動を含むさまざまな体験活動を推進しています。環境教育、福祉教育、人権教育、国際交流教育、キャリア教育、職業教育など、地域のボランティアの方々に指導していただいています。

因みに、第一学年の総合的な学習の時間におけるテーマは「足元を見つめ 一歩ずつ変える～環境ボランティア～」、第二学年の総合的な学習の時間におけるテーマは「ともに生きる とともに歩む～福祉ボランティア～」、第三学年の総合的な学習の時間におけるテーマは「地域から世界を見つめよう～地域から地球的規模でのボランティア～」です。



(3) 成果と課題

学校運営協議会や学校支援地域本部の制度はまだまだ始まったばかりの新規事業であり、今後どのように進化・成長していくかとても楽しみな事業です。本校が地域との連携でねらいとして掲げている「公立義務教育学校の教育活動を核とした地域活性運動」という取組が、本校のねらい通り軌道に乗れば、京都市洛西地域における、またわが国のニュータウンにおけるモデル事業となりうるとともに、わが国の学校改善への大きなビジョン・筋道を発信・提供できる取組であると確信しています。

学力向上・学力格差の課題・何のための学力向上なのかという価値観の模索・人間力向上の課題など、学校が地域の方々と具体的にどう関わることによって、解決の足がかりをつかむことができるか、前途の視界は良好ではないかもしれませんが、地域の心ある方々と思いを共有しながら取組をすすめていきたいと考えています。